

平成29年度（2017年度）
平成29年度ユニバーシアード強化研究会（第63回指導者会議）報告書（要約）

ユニバーシアード競技大会台北2017の検証と今後の課題
—次回ユニバーシアード競技大会2019に向けて—

公益社団法人日本学生陸上連合

本稿は標記報告書の要約版です。詳細な内容については別紙報告書をご参照ください。

【松本会長の開会挨拶】

台北大会はメダル16個と参加国中最多で満足の結果。地元台湾はすごい盛りだったが、日本ではほとんど知られていなかった。もっとエネルギーを注ごう。この研究会で強化内容が明らかになればユニバ大会への議論も深まる。

◎第1部 競技成績とその周辺

▼演者はキーワードで簡潔にテーマを語る

【栗山】強化委員長

「アベレージ」コンスタントに力発揮できる競技力、「対応力」～短期間には身に付かない

【安井】総務・短距離

「実力発揮」～パフォーマンス達成率に注目

【米田】長距離

「至上命令」～一つでも多くのメダルを、ピーキングをしっかりと

・駆け引き～臨機応変の戦い方を身に付けつる

【森長】跳躍

「事前調査」～シーズンベスト

【岡田】投てき

「安定性」～心、技術、その他→一発屋では駄目～「心の安定性」が重要

▼参加選手枠～JOCとの折衝

・41名の要望で38名に（前回より6増）女子リレーなど→次回は40名超えを（栗山）

・大会前にJISS集合～長距離、短距離（バトン練習が非常によかった）跳躍はなし（次回は検討）投てき～サポート体制考えたミーティング効果的だった

▼事前情報

・サブトラックの素材、練習場の環境などの情報は重要（森長）

・平昌五輪の小平選手→8割の力で勝てる実力を（岡田）

▼好成績の秘訣

・リレー～事前の戦力分析→逃げ切れる（男子）

過剰な期待感ではなく「ひょっとしたら、いいかも？」（安井）

・長距離～海外遠征優遇～経験者増加でユニバが初の海外という選手少なく（米田）

◎第2部 今後の強化のために何をすべきか

▼大会前の合宿

「スタッフ間の意思疎通」が一番大事～ブロックを超えて意見交換→結果（米田）

パーソナルコーチとの関係が重要～日頃からの付き合い大事（米田）

他大学のコーチからの客観的なアドバイスで好結果のケースも←ジュニア時代から熟知

インカレの得点に縛られると全体の強化は頭打ちに～国際的な選手にどう育てるか（栗山）
「同じ釜の飯を食う」～JISS事前合宿ミーティング←技術を言い過ぎると迷走（安井）

▼アンケート調査

・回収率 50%～帰国便の中で全員に書かせる
体調、目標、成績分析、反省など具体的に～フォーマット・データベース化で検証可能に
専門家の目でコーチが成績見立て～想定と実際の差を分→経験値として生かせる（船原）

・昔と比べ人見知り～SNSのような形式ならいろいろな話も（安井）

▼会場からの質問へ

・「海外での安心材料は？」～食事を中心とした生活基盤と安心の担保に尽きる（安井）
・「学連として海外派遣の予算は？」～あるので強化委員会は計画立案を。湯水のようにとはいかないが、一定の選手に絞れば可能（永井専務理事）

▼コーチの情報伝達

・今回はスタッフの経験値～熟練のコーチ集団→新しい人への引き継ぎが重要に（米田）
・大会後のミーティングも重要～選手、支援コーチも交え話し合いの場を（森長）
・陸連のU23などの強化プログラムなども利用すべき、アジアの小規模遠征なども積み上げて選手・コーチの経験値を上げる（栗山）
・関東学連派遣のパーソナルコーチとの連携も（永井立子、船原）

▼次回ナポリ大会の選手選考

7月開催で個人選手権では間に合わない～前年日本インカレも参考に陸連PG大会などで選考し、地区インカレ好成績の選手を追加するかたち（栗山）

▼フィールド競技の戦い方

・「日本選手はトップ8の5、6回目が極めて弱い？（沢木副会長）
←「跳躍はトップ8に残るのが目標で3回目までにベスト～力が残っていない」（森長）
←「決勝の12人を上位（4）中位（4）下位（4）の各4人に分けて考えると下位の4人ならなければトップ8～参加選手の分析→戦略、読みが重要
・「将棋の羽生善治さんは、緊張するのは自分の実力に近いところに挑戦する時。実力より高すぎる、あるいは低すぎる時は緊張しない。いかに局面を楽しむか、楽しむ方向に変えていくかだ（松本会長）

・「全力ではなく95%ぐらいでいいぞ」～安心材料を与えること重要（栗山）

・練習でも決まった本数（3本+3本など）で意識させる（森長）

・ハーフマラソン～コースの把握、ライバルの情報、シミュレーションで解緊させる

→スタートまでにいいイメージを提供（米田）

・競技だけでなく平昌五輪の小平奈緒～李相花選手のような交流も（障子）

【永井専務理事の閉会挨拶】

・ユニバ大会報告は毎回あるが、このような検証はこれまでなく、非常によかった。今回の参加枠増加は前回大会でロシアに次ぐ2番目のメダル獲得をしたJOCのご褒美。頑張ればJOCも応じてくれる。14人のスタッフを今回はできるだけ変えないとの方針で臨んだが、次回は3分1くらい入れ替えを検討する。

◎提言：今後のユニバーシアード競技大会の強化策（施策）

例えば、国際大会参加の支援（海外）、強化合宿の充実、コーチングシステムの充実、選手への支援（異文化情報など）等があげられる。

以上